

RSNが依存問題の理解を深めるため 援助職者・サポーター向け養成講座を開講

パチンコ依存問題の電話相談を受けるリカバリーサポーター・ネットワークは8月27日、横浜市内にて依存問題に関わる援助職者やサポーターを対象とした養成講座を開いた。

パチンコ・パチスロ依存問題の解決を目的として設立された「ぼちんこ依存問題相談機関 リカバリーサポーター・ネットワーク (RSN)」(沖縄県中頭郡・西村直之代表)が主催する第2回「援助職者・サポーター養成講座」

では、「事例から学ぶギャンブリング問題への理解と対応」と題して西村代表、稲村厚司法書士、NPO法人ワンデーポートの中村努施設長の3名が講師を

担当。養成講座の対象者は、依存問題に関わる援助職者やサポーターだが、第2回ではソーシャルワーカーや支援センターの職員ほか、パーラー関係者も参加していた。

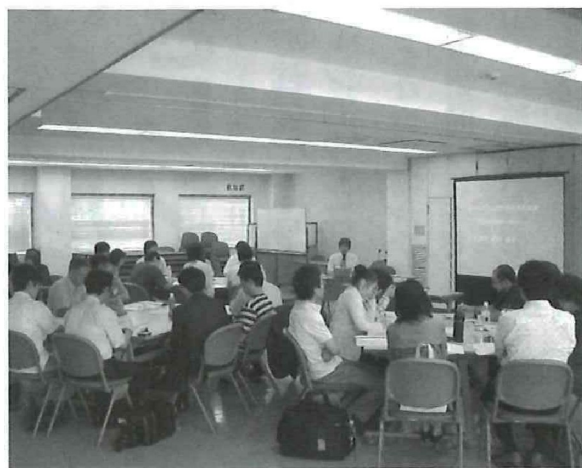
第2回でもギャンブリング問題の基礎知識や多重債務問題、当事者からの視点など、パチンコ・パチスロ依存問題について多岐に亘る内容となった養成講座だが、第1回はすでに6月29日

に事務所のある沖縄県で開催されている。今後は、今回の神奈川県を皮切りに全国で開講される予定だ。

RSNは2006年4月の開設以来、パチンコ・パチスロ依存問題で悩む人々を対象とした電話相談事業を行い、その電話相談によって蓄積された事例を元に依存問題の実態把握に努めている。この養成講座の目的は、依存問題に関わる援助職者やサポーターがギャンブリング問題に対する理解を深め、問題を抱える本人やその家族への対応及び適切な介入が行えるよう情報を共有することにある。



写真左から西村直之代表、稲村厚司法書士、中村努施設長。



参加者は講義を聞くだけでなく、グループに分かれて仮想ケースの問題点などを話し合った。

当日は、各講師の講演の前にRSNに寄せられた電話相談の内容を元に作成された架空のケースが提示され、グループ分けされた参加者がケースの問題点など話し合い、グループ発表した後に講師が解説・補足していくかたちで進行された。